

1. 令和2年度（補正）水害発生時の災害廃棄物処理に関する初動行動等の手引き等作成業務（繰越） 水害時の災害廃棄物処理に関する初動行動等のハンドブックの作成

廃棄物処理の経験が乏しい職員が突然災害廃棄物の対応を迫られる場合に、発災後優先的に対応が必要となる行動を短時間で確認し、系統立ててイメージできるようなパンフレット形式のハンドブックを作成。災害廃棄物処理の対応力強化を図る。

災害時の一般廃棄物処理に関する初動対応の手引き（環境省，令和3年3月改訂）で軸となっている5項目を基に、写真やイラスト、これまでの事例等を交えて分かりやすくとりまとめた。

大項目	タイムライン項目	ハンドブックでの記載事項
1. 組織体制の確立	非常時の連絡手順の確認	平時のうちに体制確立の手順を定めておくこと 庁内他部局とはどんなことで連携が必要となるか？ そもそも災害時の廃棄物処理って何をすればよい？
	安全確保	
	災害時の組織体制確立	
2. 情報収集、処理方針の判断	情報収集内容・手順の確認	災害時に収集する必要がある主な情報と相手先 廃棄物処理事業の継続の可否や仮置場開設、支援要請を行う必要性の判断材料例 支援を受ける際の被災自治体側の準備 そもそも仮置場とは？
	情報収集・関係先との情報共有	
	廃棄物の処理方針の判断	
	支援要請	
3. 生活ごみ・し尿の処理	収集運搬・処理体制の確保	事業継続の可否、支援要請の要否の判断し体制を確保 発災後の生活ごみ、し尿の処理対応について住民へ周知 周知方法 生活ごみ、し尿の処理対応例 体制に変更が生じた場合は住民等に速やかに再度通知
	収集運搬・処理の実施	
	広報資料の様式作成	
	広報資料作成	
	広報の実施	
4. 災害廃棄物の処理	仮置場の開設を想定した準備	災害廃棄物は通常的生活ごみと区別して対応する 仮置場の候補地について 仮置場候補地の情報整理のポイント 仮置場の運営方針について 仮置場のレイアウトについて 住民向け広報資料例
	仮置場の開設準備	
	仮置場の開設・運営	
	広報資料の様式作成	
	広報資料作成	
	広報の実施	
5. 継続的な処理体制の確保	継続的な処理体制への移行	長期的に安定した廃棄物処理を継続できる体制を確立 災害時における補助金制度の活用 搬入出量の管理記録や仮置場・被害状況写真を残す 「便乗ごみ」に注意を！
	災害廃棄物処理や被害状況に関する写真、進捗等の記録	

2. 令和2年度（補正）水害発生時の災害廃棄物処理に関する初動行動等の手引き等作成業務（繰越） 水害時の災害廃棄物発生状況図化の手引きの作成

現在公開されている各種データを利用し、町・丁・字ごとに災害廃棄物発生量を推計し図化する方法をまとめる。図化方法はGIS（地理情報システム）ソフトを利用する場合と総務省がインターネット上で開設するjSTAT MAPを利用する場合の2通りを記載。より具体的に詳細な被害予測を作成することで、より現実的で効率的な処理計画構築の一助にする。

図化方法2種

①QGISソフトを利用

フリーソフトQGISをPCにインストールする必要がある。
作成した図面を含め他PCとデータのやり取りが可能。

②総務省のjSTAT MAP

インターネット上で操作するため特別なPCを用意する必要はない。
図化用Excelファイルまでなら他PCとやり取り可能。

災害廃棄物処理計画に利用できる主な公表データ

出典元	利用するデータ名
国土地理院 地理院タイル	種々のベースマップ（標準地図、航空写真、色別標高図、近年の災害等）となるXYZ Tiles（地理院タイル）
総務省統計局 e-Stat 地図で見る統計(統計GIS)	町・字境界データにひも付けされた国勢調査結果（町・字ごとの人口数、世帯数、65歳以上年齢人口数、住宅の建て方別世帯数）、事業所・企業統計調査、経済センサス、農林業センサスの調査データ
国土交通省 国土数値情報ダウンロード	洪水浸水想定区域（ハザードマップ）、一般廃棄物処理施設、緊急輸送道路、河川データ、自然公園地域等
国土地理院 基盤地図情報サイト	基盤地図情報データ（行政区画の境界線及び代表点、道路縁、標高点、水涯線、建築物の外周線等）

※赤文字は本手引書内で使用